

剣岳周辺 (山城)

No. -

夏山合宿 報告

入山. S52年 8月 19日

下山. 52年 8月 28日

(参加者氏名) 師田信人(M4 IV L) 二俣勇司(SL) 吉田彦樹(A4 W)

須貝与志明(A4-V) 片山博彦(A3-III) 下田章(A3-III) 田中誠司(A2-II)

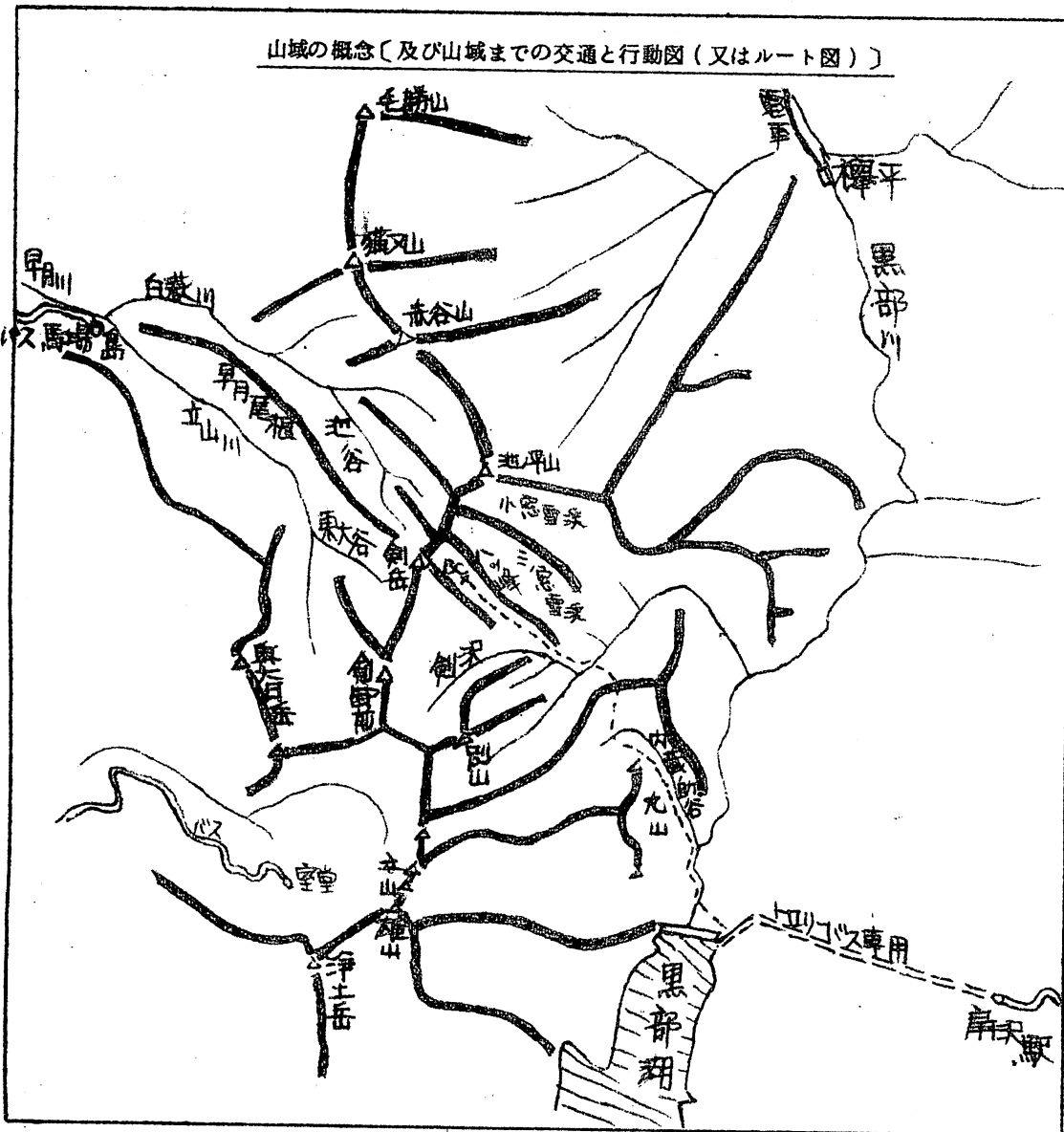
内川建(A1-I) 加藤喜章(A1-I) 島谷寿(A1-I) 山本雅大(S1-I)

月日	発地点 天候・時刻	着地点 天候・時刻	特記事項
8/19	松本新堂 5:10	扇来駅 7:30 黒部川 8:05 内蔵助谷出合 内蔵助平 12:00	師田さんが1日1回の2 ニ俣さんがリザの内蔵助 谷の鳥谷転落。
8/20	IS-113才谷乗越 5:40	真砂沢 7:30 長次郎谷出合 9:35 熊岩 B.C 12:25	2日11:00にヒメツバ ンバ行るとヒメツバが 7:50に6峰faceで筆置
8/20	B.C - 長次郎谷 - 剣沢 - 剣沢小屋 - B.C	PM 7:00 O - PM 11:30着 2日AM 11:02出発 AM 9:25	遭難予部の手つた下田 ニ俣 吉田 下田 片山の の4人が行動
8/21	BC - 長次郎谷左保壁(上訓練) 本峰 - 左保 - BC	10:10 12:30 13:45 15:35 13:30取付 15:30終了	山上訓練のついでに10:10 6峰登攀内容の別紙
8/22	BC - 1.2峰間コル - ハッ峰縦走 - ハッ峰の頭 - 右保 - BC	5:55 7:05 11:45 13:00 14:30 ~ 15:00	師田と須貝5人入山 師田さんとニ俣さん少
/	BC - R9取付 - 稜線 - JVC - ドム - 池谷乗越 - BC	10:10 7:35 11:10 11:30 13:20 14:30 15:00	5人の入れ替わり。 夜酒を飲む。
8/23	BC - ハッ峰六峰face登攀	8:00 8:20 10:40 12:10	6峰の谷下降が 7:50の256のJULハ
/	干支干支の丸登攀 - 右保 - BC	各Pテニと10:30に帰る	ヒツトラバースト と鹿の窟へ向った。
8/24	BC - 源次郎尾根取付 - 1.2峰間JUL - 2峰手蔵谷側face登攀	5:05 6:00 8:10 9:00 ~ 11:00	(下田 片山 - 1人)
/	24峰JUL - BC, BC - 池谷乗越 - R7 - ドム - 剣尾根 - 扇来	12:35 5:10 5:40 6:40 7:25 15:35 (師田 片山)	次郎の頭 - BC / 6.0
/	BC - R4 - ドム - 中央のセ - 長次郎の頭 - BC	5:10 8:20 10:30 11:30 13:50	(吉田 須貝)
8/25	BC - 剣来 - 黒合JUL - 前剣沢降 - 前剣沢尾根 - 本峰 - BC	5:20 7:10 9:25 12:05	(片山 師田 向田 中)
/	BC - 源次郎尾根JUL face - BC	5:20 6:35 10:10	210-テニとヒメ 1千ほど登った所2両 の穴にカミカミ
8/26	BC - 池谷乗越 - 池谷左保 - R7 - 小尾根 - 三窓	(師田 田中 須貝) 以下合流	
/	BC - 真砂沢カヤテ - 二俣 - 丹波 - 池平山 - 三窓 - 干支干支の丸登攀 - BC	5:30 7:25 10:15 13:25 各Pテニと10:30に帰る	
8/27	BC - 武蔵谷 - 前剣尾根 - 本峰南壁登攀 - BC	5:55 14:15	BC - 利谷 - 東大谷左保 5:25
/	237JULセ - 三本槍面face - 本峰 - BC	7:35 11:00 13:35 14:10 5:00 6:00 8:00 11:30 須貝	
8/28	BC - 真砂沢カヤテ - 113才谷乗越 - 内蔵助平 - 黒部川	7:45 10:35 12:10 15:40	師田さん 加藤 扇の少 吉田さん 早稲根さん

※黒色インクを使って、楷書でわかりやすく書いてください。又所つたりまるめたりしないでください。

信州大学山岳会 山行報告用紙
(コネクト用)

山城の概念〔及び山城までの交通と行動図（又はルート図）〕



山行についてのコメント その他特記事項

岩場定着合宿とあって、岩登りは十分できてしまったが、まだ基本的なことを忘れていた所があったり、雪上技術に関してはまだまだという感じでした。特にグレンドマンがうまくいかなかった。入山時から事故現場に出たり、台風のせいであまり雨が降らず雨の中の行動が多かった。全体的に重苦しい気分があった。うすうすと反省点の多い合宿でした。

附属書類：無・ (有) 〔岩登り記録及びルート図〕

上文言(山本)

《行動記録及び感想一冊》

8/19 ①

記録ミマヤ

- 5:10 部屋着 マイクロ
- 6:30 扇塚トロバス乗着所
- 7:30 7-ミトル着
- 8:05 黒部ダム着
- 8:55 1本目
- 10:00 2本目 Xシ
- 10:40 島谷転落
- 11:00 出発
- 12:00 内蔵助T.S着

2本目あたりから島谷(行始)ハシゴのツツミの所でタシが岩にさがるたけとたに3後3にひか虎手に力が入らずその時転落。手・足首で少し切りヒッ骨を打った。20分程休み、島谷のズリクを下田さんが背負い、下田さんのキスリで橋をこいて島谷は空身で出発。下田さんのキスリがT.S着後、片山さんと田中さんが回復に行った。自分の体力不足と痛感しました。

8/20 ① → ② → ③

記録加藤

- 5:40 T.S出発
- 6:30 1本目
- 7:30 ハシゴ段乗越(2本目)
- 8:40 3本目
- 9:10 剣沢
- 9:35 真砂沢コナ
- 9:50 4本目
- 10:50 5本目
- 12:00 6本目
- 13:25 熊の岩T.S着

(感想) ハシゴ段乗越の登りは暑く苔のたがりの元気があつた。剣沢の下降はともいって、食料の雪玉に入り、長次郎のやるときしくしたたかな。痛はもういっつも痛い。三ツ石たこびった。しかしこのホッパは"は"は男のたつたての"は"の"は"

8/20 13/21 からの①

記録下田

三俣、吉田、片山、下田の4人

熊岩 - 長次郎谷 - 剣沢 - 剣沢小屋 - BC
 20日 PM: 8:00 PM: 11:30 AM: 9:25
 21日 AM: 8:00

(感想) 源三台小屋根を越え大阪市役所の佐々木科之助に剣沢小屋入軍の話を伝へ、剣沢小屋に白した。昨日はATACで工事改めあつた(ハ)コブターが飛びかいた。コブタというものを今一度剣沢小屋まで見せました。

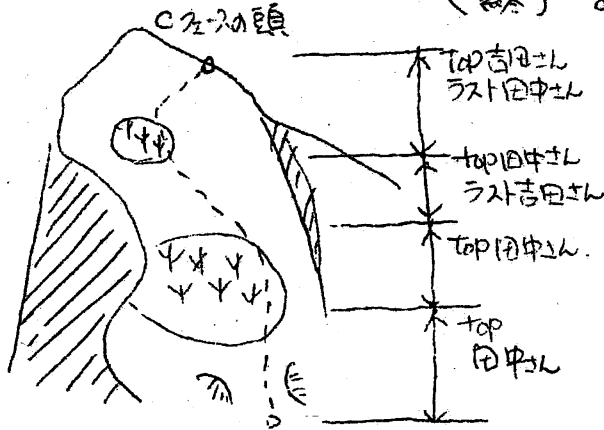
8/23 6峰 Dface 久留米大 route L. 毛田, スカイ

取付 5:40
終了 7:00

8/23 6峰 C面 - 2 RCC11+

記録 マヤ

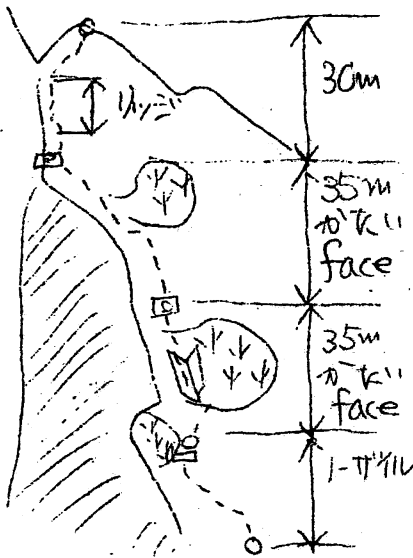
L. 田中 吉田 島谷 (取付 5:33
終了 8:00)



(感想) 3ピッチ目から
5左より右にたどり着く。
1ピッチ目には新しい所
があった。特に3ピッチ目は
1つらしかった。

8/23 八ツ峰 六峰 C face 剣稜ルート 記録 山本

Leader 二保 山本 (取付 5:50
終了 7:10)



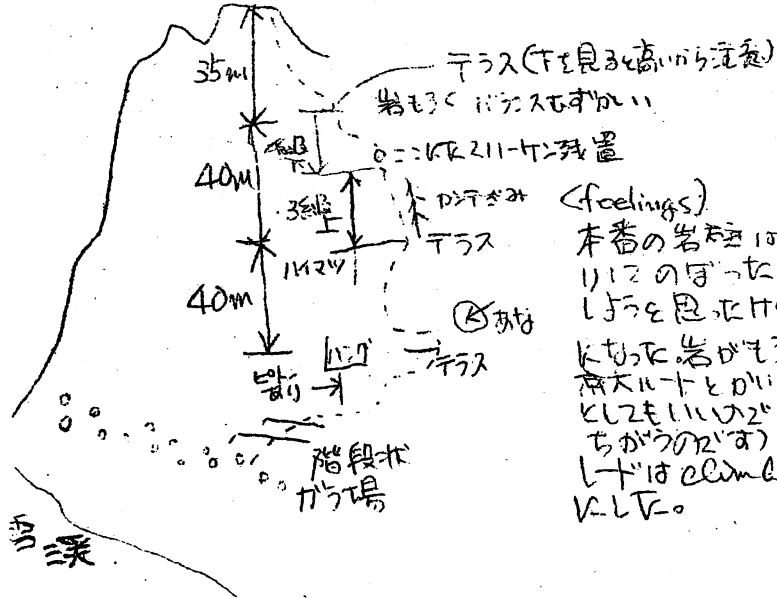
(感想) かなり岩ざり先日の
の惨事を手のあたりで見下して
もって最初のうちはびびって
腕カチカチがこぼれ落ちた。
上登り行くとスチール face 2箇所
空と見上げる岩がスチール、その中
をひたすら登る二保さんはずいぶん
怖いとかが、その中でも技術的
にはあつたいい所はなかった。最
終ピッチの入り口でテラスから右下
に下り、それから上に登り、その
取っつきが二。

8/23 ハッ山 6山峰 Bface 京大ルート

記録内川

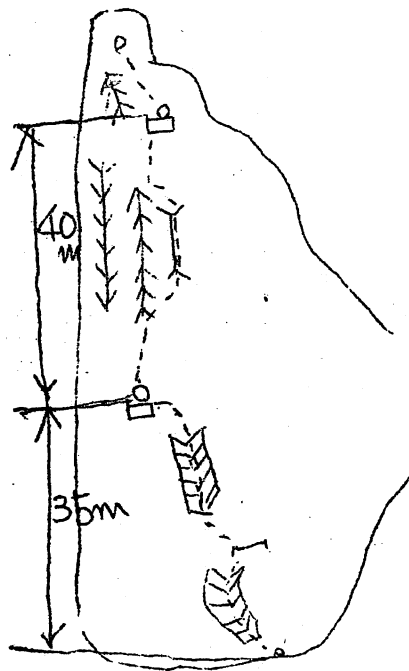
L山, 内川

取りつき: 6:00
終了: 7:45



(feelings)
本番の岩種は ほぼめ22" ビ"ビ"ビ"ビ"
112のまった。三点支持が 注意。
しつと思はけた、ビ"ビ"ビ"ビ"ビ"ビ"
くちた 岩がもろく 30"ある。112のまった。
京大ルートと 112のまった。 実には京大ルート
と 112のまった。 (京大ルートと
ちがうの2"は 112) (京大ルートと
112は climber 内川氏の 提案と 112
V.L.T.

8/23 ハッ山 六山峰 Aface 魚高112 記録加藤



(感想) 部分的にむずかしい所が
あった。112の凹角と、22"の
のクランク入る ぐま ぐま ぐま ぐま
が 特別にむずかしかった。あれは 確
定していた。(F田)
と 22"のクランク。 体も ぐま ぐま ぐま
精神的に ぐま ぐま ぐま。 2"も 無事に
抜けた。(F田)

8/23 ひしのたん下降
(巻)

8:00 八峰5.6コルK全員集合

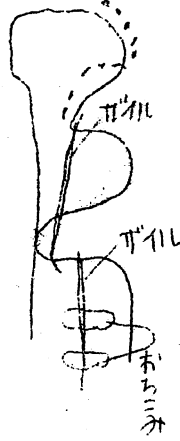
8:25 コル飛 雪沫が霧川を流れておりそのためスリッパを2本履き本目
を、おろしなが、5.6mの空中でん垂になるし、雨脚も通
じいたが、五六のコルK戻る

10:40 五にへ戻る。Xシ

10:55 コル飛

12:20 干涸下着

(感想) 待ち時間は寒く2かおたか、ありの向の穂3L
1)2) 登々だったが、勉強がけが有して。

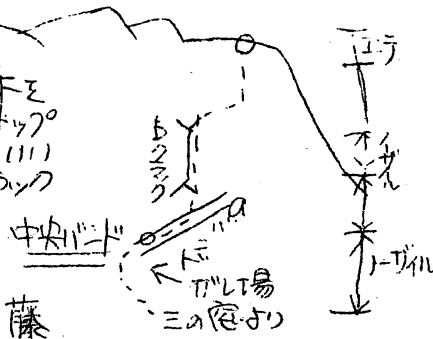


8/23. 干涸中央干涸 - a112のクラック 記録ニヤ

L. 野田さん、内川 島谷

取付 13:15
終了 14:55

(感想) 先行P1-1が、あつたため
たぶん、待てない。三ツ石が非常にツカ
かたむかた。a112の上部が左側
の壁を登るところが、ありピッケルが邪魔だ。
a112の下部は高度感に満ちあふいており下を
見ると恐ろしかった。クラックが、ガイルの残りエッジの
の野田さん、言うのをはじめは、忘れた。後は(11)
かけた。どうもすみません。またクラック
が、その内川の確保を、クリップで、高さ
らみでして、したの、悪かった。



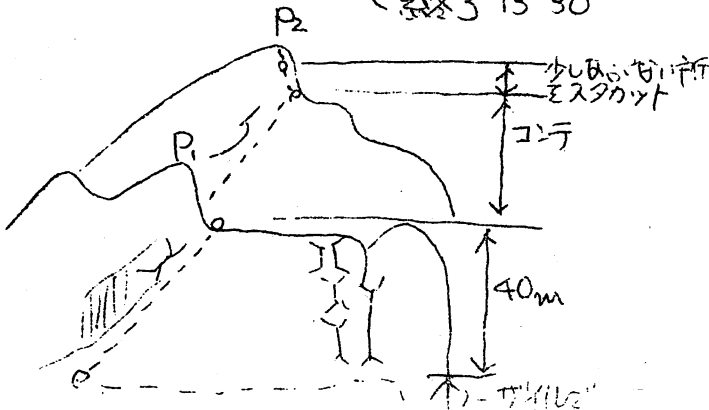
8/23. 干涸ニヤタルム

記録 加藤

L. 吉田、加藤

(取付 12:40
終了 13:30

(感想) / エッジが少し
か、スタカトを登る前が
た、物足りなかつた。

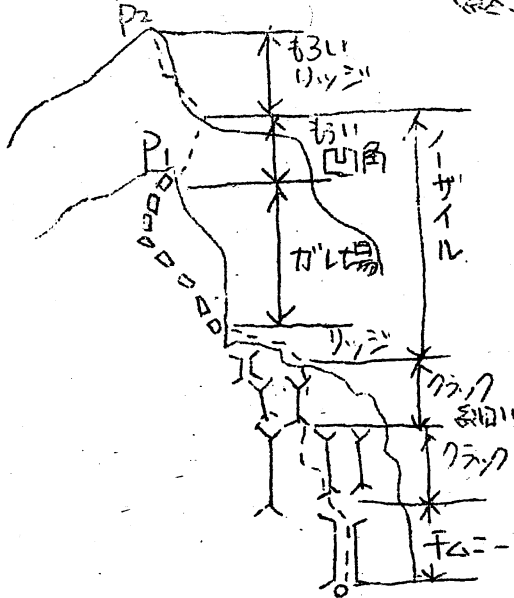


8/23 千早山

記録山本

leader 須目 七ヶ他山本

(取付: 12:40
終了 12:00)



(感想) 思ったよりおもしろい。全体的に岩が湿るのりでず。

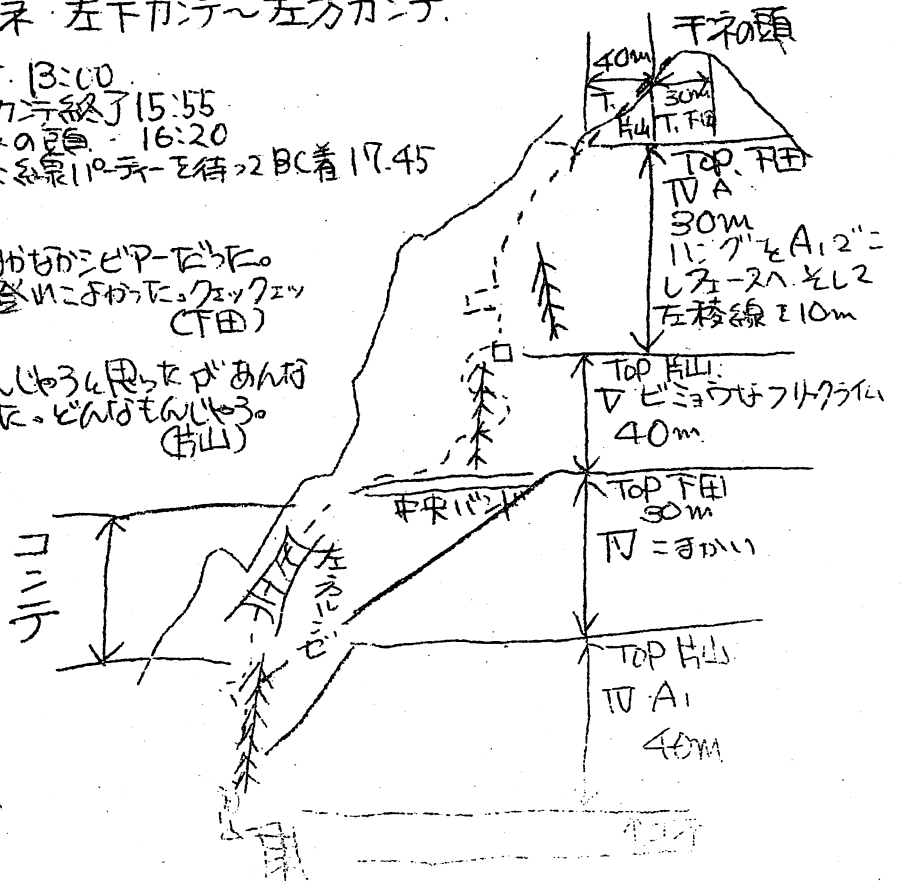
8/23 ①の5 ②の5 ③の5 ●の5 ◎の5
マニネ 左方カテ~左方カテ

L.下田 家来片山

取付 13:00
左方カテ終了 15:55
千早の頭 16:20
左稜線10マテまで2BC着 17:45

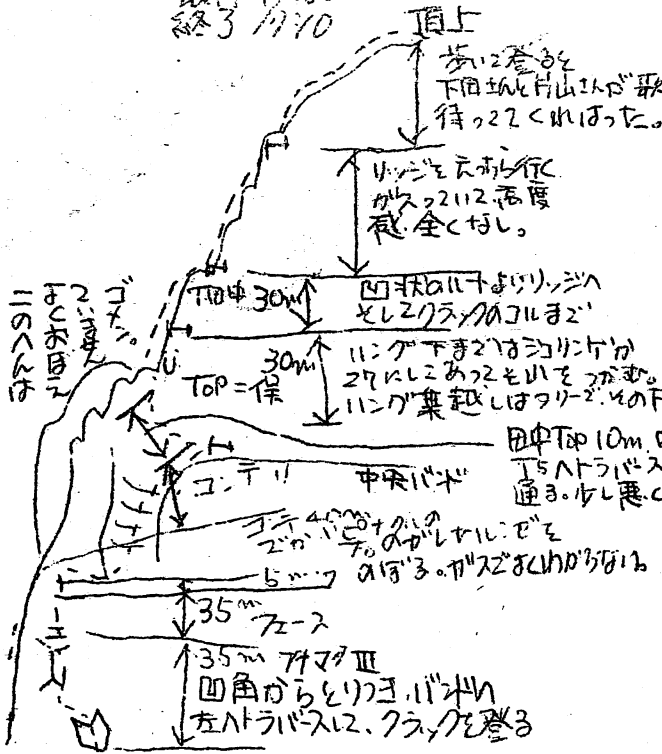
(感想) 千早の頭はシブシブと
無事に登頂に成功した。クマクマ
(CF山)

千早の頭はシブシブと
無事に登頂に成功した。クマクマ
(CF山)



8/23 千尋左稜線 L二保、田中

取付 13:00
終了 17:00



(感想) 下峰の初めは雨が降って
たかたかというもののボルト+鋼
索1.5mほどはいるのを食い直った
けど何となく入出で核心部
もなんとも越えることのでき
た25分だった。時間がかかっ
たのとガスで雨も降り、
快適な登山ではなかった
のが残念でした。(田中)

左稜線があんまりよく見え
ないときはおもしろかった。
(下部)
左稜線は登りにくいけれど
たかたかとキリキリと登るこ
ろが面白かったです。
晴れた日に登りたかった(Mab)

8/24 ①① → ●

記録 加藤

L 下田、片山、田中山本、島谷、内川、加藤

5:00 BC 出発

6:00 兼治郎尾根取付

8:10 1.2峰間コル

9:00

5 各IP-テック別々登山

11:00

12:55 BC

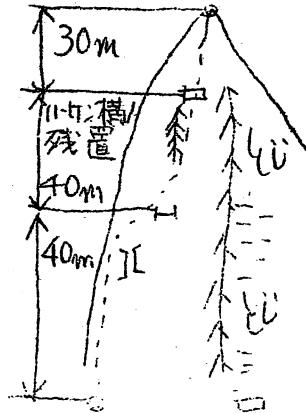
2山峰より25mのアフガイレン。
雨のためアフガイレン終了
のコルより長次郎谷へ1.12ピ
を下降する。

8/24 三原次郎尾根平蔵谷側 C face

L 片山、加藤

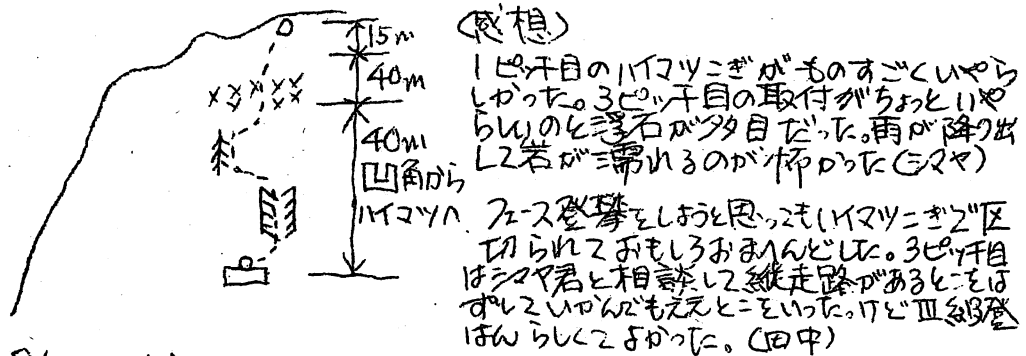
取付 9:15 終了 11:10

(感想) 岩がもろかったのと、テックが長とつかい
ました。恰好よく登ろうとしたら、おだてとど
すかい所で変な恰好に落ちてしまいました。
落ちることがありました。



8/24 藤次郎尾根平截谷側ABフェース 記録 田中

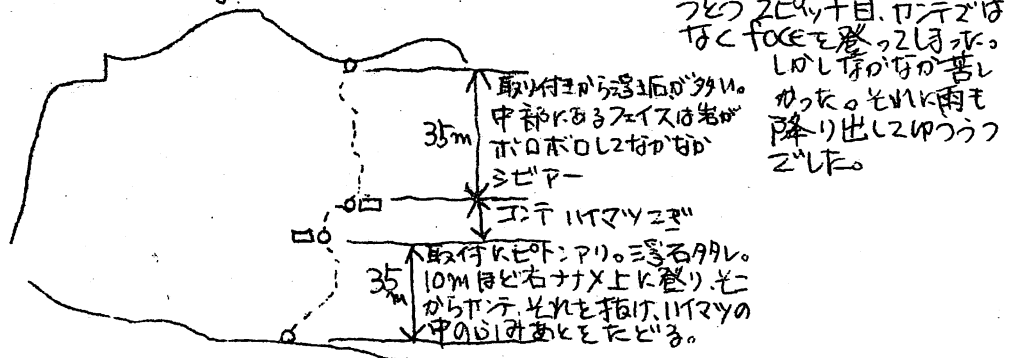
L田中 島谷 9:20取付 ~ 11:10終了



8/24 藤次郎尾根平截谷側 B face 記録 山本

Leader: 下田, その他1. 山本, その他2. 内川(ラスト)

9:30取付
10:45終了



8/24 剣尾根 ~ 中央壁 P-テ- L 野田, 二俣

◎ → ● → ●

- 5:10 吉田 スパイ P-テ- と BC 出発
- 5:40 三ッ谷 乗越
- 5:55 三ッ谷 登り
- 6:40 山角に入る。Rは本流下川一の右手
ノーザルで登る
- 7:15 主稜につく
- 7:45 コルムより核心登り開始
- 9:25 山角
- α110ピッチ下降 abseilen 2箇所 4pitch
- 11:00 中央壁 左ルートにたどり着く。1pitch目から雨が少し強くなる。Rは少しづつ。7
リ-06-32もアブミをバンバン使う。
- 3ピッチ目のIVもアブミ使用 4ピッチ目のIVは11-ハンなくフリー。73m。
- 14:00 終了 ガイルと山角 剣尾根へ。
- 15:35 藤次郎の頭
- 16:00 BC 着 W-1 山角の感想 次ページ

- I pitch 市口市口の容易なルート
 - II 〃 核心の壁に入り、クワック状 face
 - III 〃 尻の谷が水に入る。適当な間隔で後壁に下り入る。
 - IV 〃 凹状の壁の右壁をのぼる。ホールド微小
 - V 〃 核心理凹状の右壁をのぼる。途中より、クワックに入る。部分自らのホールドスタスは極微少。その後、コンテで300m位のぼる
- R4は、快適な登攀が行なえる。ルートは右壁に求められ、凹状の壁は若くはゆるい。横は4P, 5P目は、紐か木ノルドをたよりにしてのfaceクワック登りが出来る。

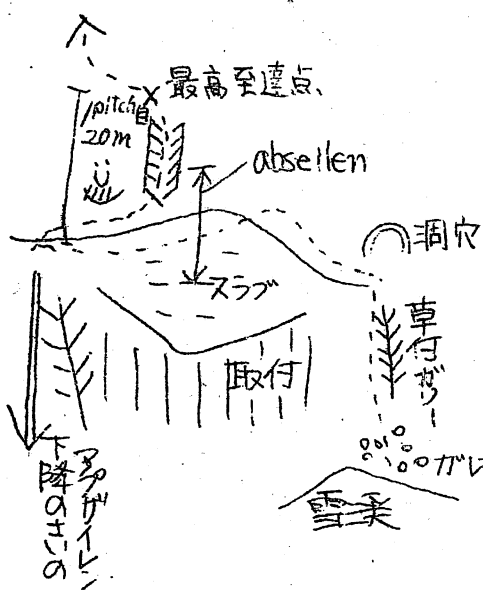
中央凹壁はルート上の点線どおり。凹壁で下降時より雨になる。中央凹壁でF4は今日の中では最悪であった。ボロボロ、又スルスル、いやらしいアブミのかけかえ……。しかしその後はコンテをきいて各滝を越える。

(感想) 中央凹壁のF4はSecondで終わった。しかしあんなにムシヤい。(Sugai)

天気はあまりおぼつかないが、ルートはR4は快適であり、1P-7Pまでこれぞ全体的には楽しく登攀できました。(吉田)

8/25 源三台 龍根 山 峰 平 蔵 谷 側 face 中央ルート ~ 各ルート
L 吉田, 片山

BC発 5:20 取付 6:35 / ヒョク登った所で下降。Fで待機してかかん
はしくは10:20 帰る。
BC着 10:10



W-凹壁の1/2区間 登りはよいが下りは雨のため、非難はイヤらしいので簡単なRアップサイにさせる。

奥雪の1/2区間 かなり長めの凹壁、穴と凹壁がある。1P-7Pに比べてより登る。ここで雨が降り出し下降する。

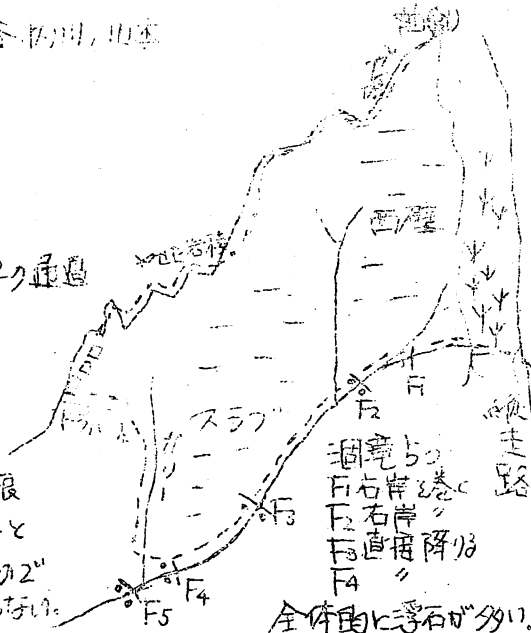
(感想) いやらしい感じのルートであった(吉田)
ヒョク目ばかりとは思えず、NoxA, 2登っていた。(片山)

8/5 前剣沢下降 - 西尾根

記録山本

L: 下田, 野田, 田中, 加藤, 島谷, 加川, 山本

- 5:20 BC 出発 長沢部 EF 剣沢へ。
- 6:15 1 体目
- 7:10 雲谷合入 ZIL
- 7:55 前剣沢のつぎ上げ E 所
- 8:20 出発
- 9:25 西尾根の稜線に出ず赤城ヶけヒク通過
- 10:00 前剣頂上
- 12:05 本峰を過ぎて B.C 着



<感想> 前剣沢は石を落しそうぞ
 1 体目。西尾根は浮き石が少なく
 気をつけて歩いた。猿次郎尾根
 へり高直感があり難しかった。天気はうら
 うしくなければ、もと気分よく登れたのだ
 だろう。しかし東大谷はいろいろなところから

洞窟
 F1 右岸と巻く
 F2 右岸
 F3 直降
 F4
 F5
 全体的に浮石が多い。

8/5 ② → ③ / ④ 源三郎尾根 I 峰 平蔵谷側下部中央ルゼ
 ~ 上部城城大 W + (の予定)

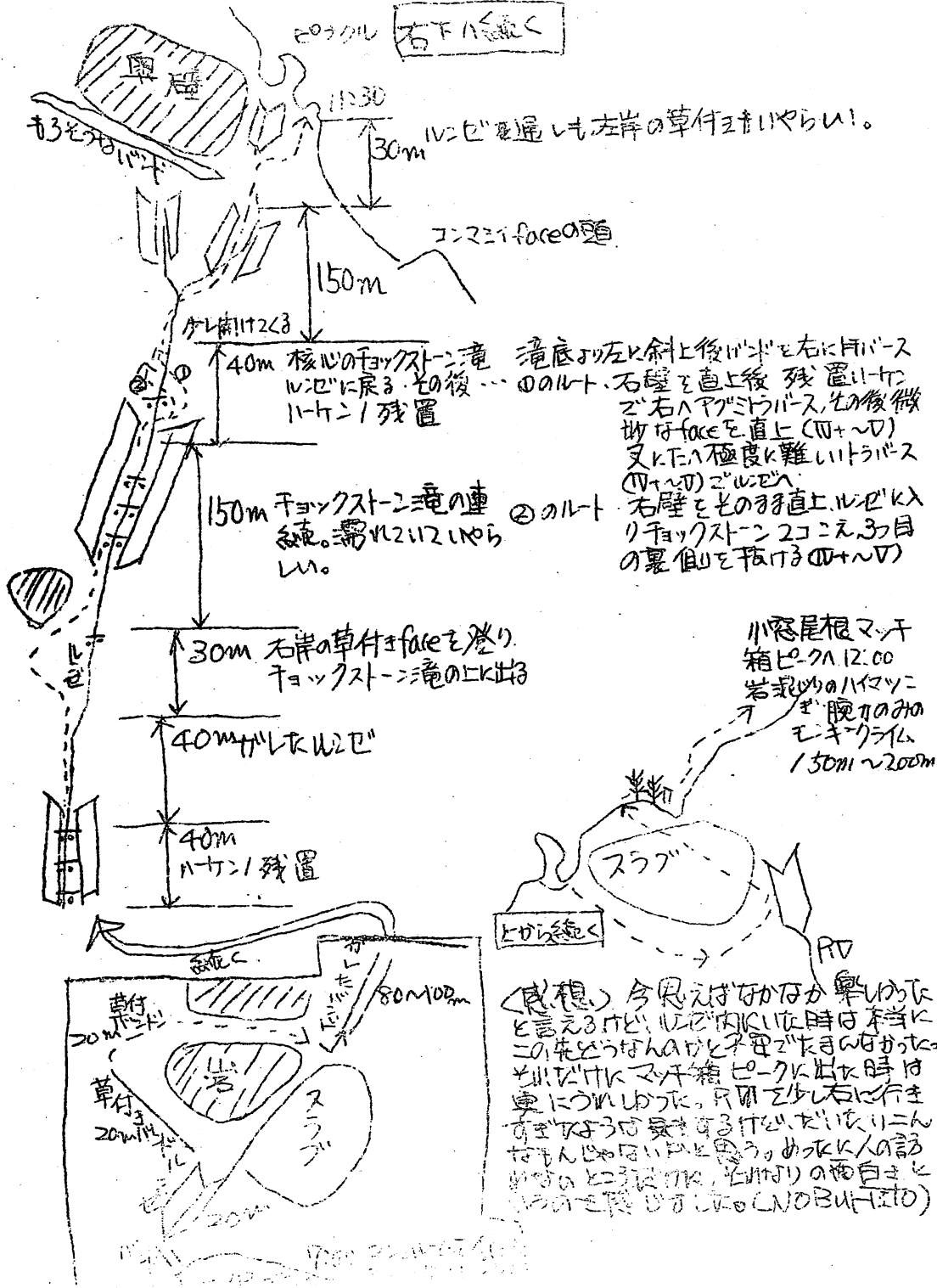
L: 保 須貝

- 5:20 BC 出発 下田 IP-TEE, 吉田 IP-TEE と出発
- 6:40 中央ルゼの出合の雪渓上登に準備。シエルトが深いので、T1415 の
 けこ保が先に降り中央ルゼ内の折れ場へ。
- そこから、須貝トップで登攀開始。
- F1 の右岸の左スレとヒクツミ、右上に登っていく。(H) が 20m ほど行った時大雨
 が降り始めたので、しばらく様子を見る。5:15 ほど雨の天気はぐり返す
 ばかりなので、あきらめ、平蔵ルート IP-TEE の声とかけ合って中止に決定した。
 須貝氏は abseilen で下降。
- 8:00 ~ 8:30 平蔵谷の出合付近で一度晴れたので、もう一度様子
 を見ると再び降り出したので、一路 BC へ。
- 10:10 BC 着 SUNAC にココアを飲料してもらう。

<感想> 潮い中央ルゼは相当にやわらかい。と2才(もり)の中を登る
 気がしなかった。雨の中を、岩登りは快適にやりぬいたから。
 (7/7/7)

しかし中央ルゼはあんまりきつくない。(Sugai)

26 ①
 小窓尾根池、右側石壁 R田
 L 野田、須貝片山、田中



右下へ続く

11:30
 30m
 W/Eを通しても左岸の草付が甘い。!

コアストーン滝の頭

40m コアストーン滝
 W/Eに戻る。その後...
 ハタン/残置

滝底は左に斜上後W/Eを右にHタン
 ①のルート。石壁を直上後 残置した
 右へアプグミラリス、その後微
 妙なfaceを直上 (W+V)
 又とT.A. 極度に難しいトラバース
 (W+V) まで入る

150m コアストーン滝の連続。濡れにくいから
 ②のルート 右壁をその羽直上。W/Eを
 リックストーン2コえ、3目の
 の裏側を抜ける (W+V)

30m 右岸の草付faceを登り。
 コアストーン滝の上に出る

40m ガレキW/E

40m
 ハタン/残置

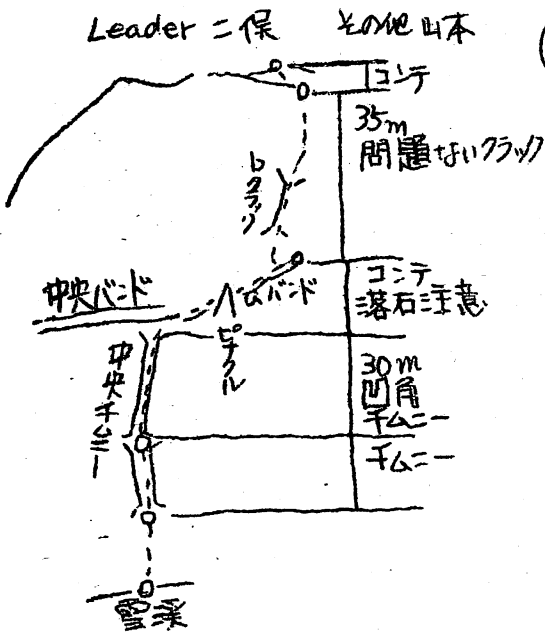
小窓尾根マツチ箱ヒークA 12:00
 岩壁のハイツ
 せ、腕のみの
 モキリタイム
 150m ~ 200m

上から続く

RO

(感想) 今思えばなかなか難しかった
 と言えるけれど、W/E内には時日本当に
 この先どうなるかわからなかった
 かもしれない。マツチ箱ヒークに出た時は
 奥にうらやま。R田を少し右に行き
 ますと、その裏側で、W/Eの壁に
 近づくと、おもしろい。おもしろい。おもしろい。
 いろいろと、いろいろと、いろいろと。
 (NOBUHITO)

8/26 千代ネ中央千ム一 aバンド bクラック 記録 山本



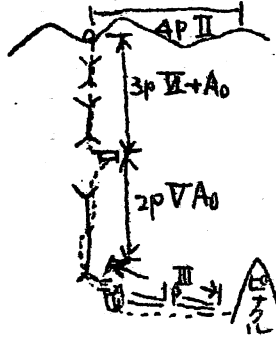
(取付 14:30 終了 15:50)

(感想) はじめ取付の前が濡れていていやな感じがした。打るべく右のfaceから出るように左側から打った方が必ずかきこえて千ム一を突っ込んで出ていく。a bandで確保してはいると青空が見えてきて高度感が出て気持ちよかった。岩のほりけは暗いところが多い。ウームとみるなあ。

8/26 千代ネ中央千ム一左フェイス hクラック

L吉田. 片山 下部取付 14:10 - 上部hクラック取付 15:30 - 終了 16:42

下部はバルにフルトの予定が魚高とバルにフルトとの中間から取り付いてしまいいびつで魚高と合流する。上部hクラックはダイレクトより取付こうとしたが、よくわからず、ピナクルよりトラバースして取付く初登ルートに行く。

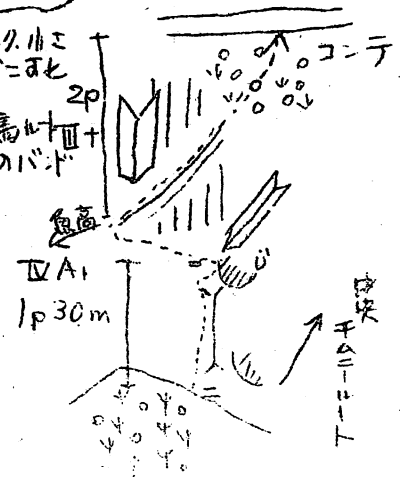


I. 簡単なトラバースより凹角
II. クラック通り、最後の集越はA02の11-12-13のクリホルドも。
III. パンテの右のクラックがR11に行く。岩少しも3となる。
IV. 左稜線に出る。

I. 快適なクラック。II. はハンクがA1でまともな感じが出る。
II. 少し登り魚高とIII. と合流した右のバンドがR11の11

(感想) hクラックはさすがに強い。しかしロッククライミングという感じだ。エビ (吉田)

hクラックは岩が硬く手ごたえがある。片山



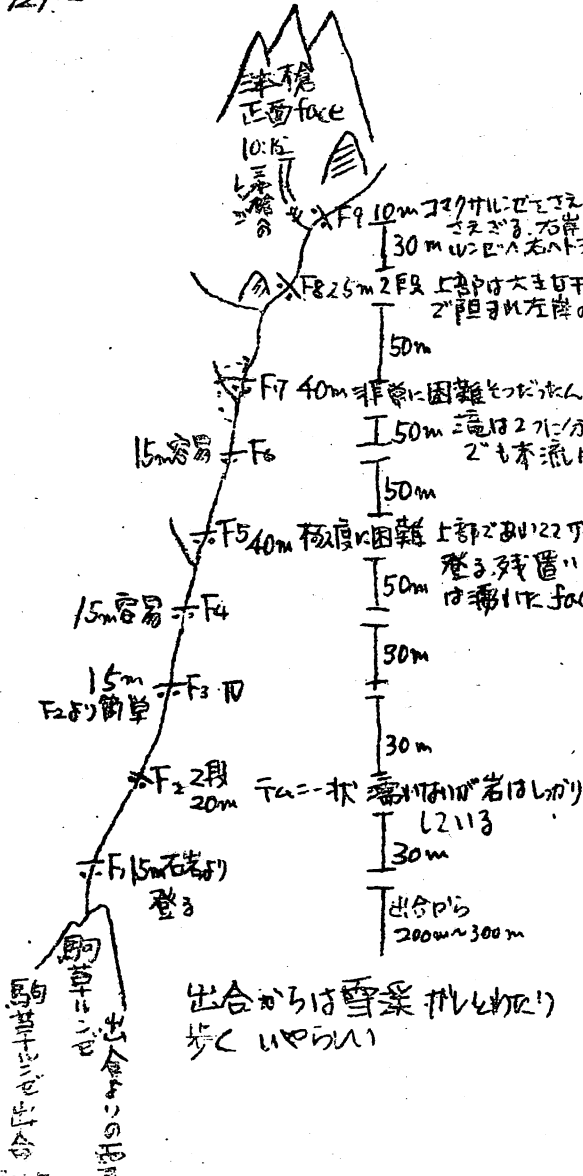
8/26 Zinne 左下カチ～左カチ

小窓屋根R7登攀後のバテバテの体に対するダ×押し岩のぼり

めんば〜 Sugai, Tanaka

W+附は8/23 Katayama, Shimoda 両氏のW+に参照した上で
 左カチは横のW+より右側に登下りたい。
 田中君は百の百の climber でした。私にはビビッていました。
 うれしお。めんばもんじやあ Sugai

8/27 ① → 東大谷駒草100m〜三本槍正面 face L 師田 吉田

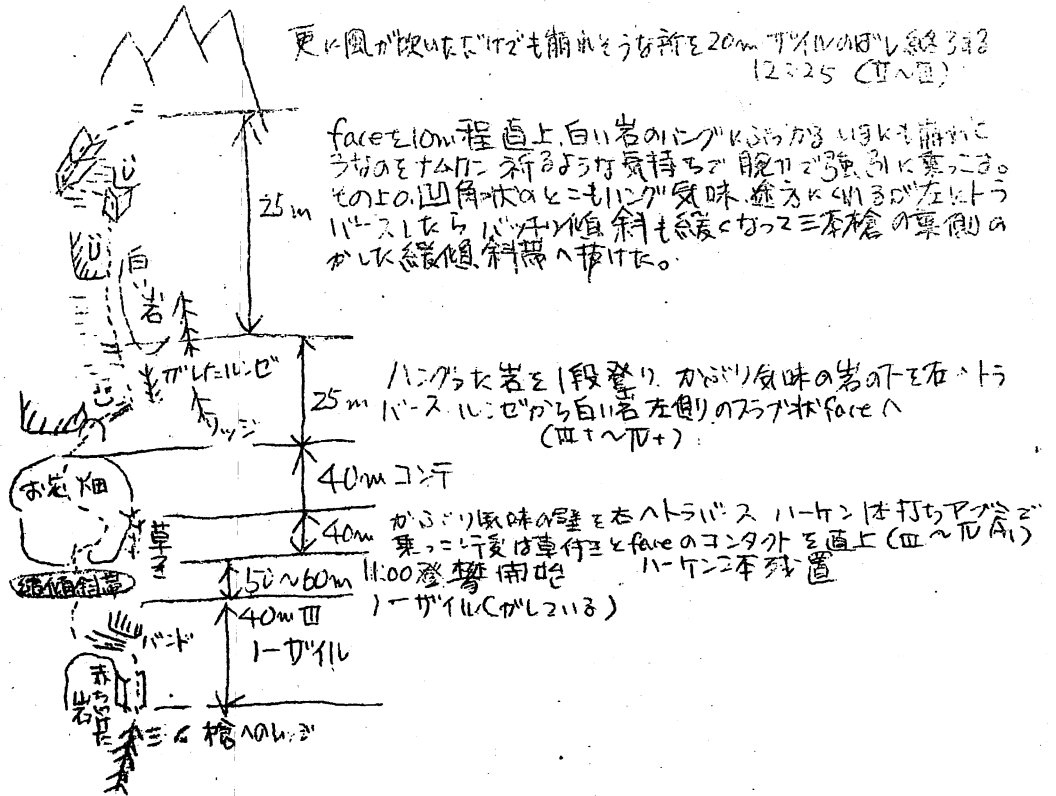


(感想) ゴマクサにせいは百の百の
 すごいと思っ下の方を左保の雪
 溪が凍ってた。そんな感じ
 いるということ。今夜来る時は充分
 な装備で F5 F7 を attack したい
 三本槍正面 face は雨の中の登
 攀。もう雨が降って来ると何とも
 思われない。とにかく雨はもう行かない
 ぞうぞうか？ (No Bm Hilo)

ゴマクサにせいの各境は T4=111
 付木にせいの頂の E9 212。
 取付の雪渓の状態のよの
 イトに思っています。
 三本槍正面は思えば程々の
 212 50m 全体的に
 合格点。

出合からは雪染れはわり
 歩く いやらい

三本槍正面 face 1+1 図



8/27 前剣稜根 - 前剣 - 本峰 記録 山本島谷

- 5:05 BC 出発
- 5:55 1本
- 6:45 武蔵谷川沿左岸を越えて
- 8:25 3本目 C.U.セ
- 9:30 C.U.セ ぬける
- 9:55 前剣ヒコク近
- 10:20 避難小屋着
- 12:00 出発
- 12:30 A2 へ行く
- 14:15 終了
- 14:36 前剣ヒコク

(感想) ヤブコは...
 前剣ヒコク...
 ...
 ...

